



『たらい舟 ゆらゆら春の川下り』 芭蕉ゆかりの地、「大垣」

平成26年4月26日撮影（大垣市船町）

- ・ ゴールデンウィーク（GW）の初日、県内は各地で夏日となり、汗ばむ陽気の中、大垣市中心部を流れる水門川（揖斐川右支川）では、たらい舟による川下りが行われ、乗船者らは川面から春の新緑の景色を楽しみました。

もともと、この水門川は、1635年（寛永12年）、大垣藩主として入城した戸田氏鉄により大垣城の外堀として築かれたものです。これを機に、水門川とたらい舟の関係について調べてみました。



たらい舟は、縦1.8m、横1.4mの小判型。船頭を除いて約180キロ、人数で3人まで乗船可能。材料はサワラを使い、市内の材木店で製造（特注）されたものです。

「おあむ物語」に思いを馳せ 大垣市とたらい舟

- ・ 関ヶ原の戦い（1600年）で、西軍（石田三成方）として出陣した山田去暦やまだ きよれきという武将が、西軍の本拠地となった大垣城を守備していましたが敗色濃厚となり、大垣城も東軍（徳川家康方）に包囲され、いよいよ落城を待つばかりとなった。その最中、籠城中の去暦のもとへ、東軍の武将・田中吉政から矢文が届き、その内容は、「まもなく大垣城は落城することになるが、去暦殿は、かつて家康公の手習いの師であつたので、もし逃げるのならば見逃そう」というものでした。去暦は家族とともに、夜中に大垣城の城壁から縄で吊した、たらい舟を降ろし、濠を渡り脱出したそうです。船頭が竿1本で操るたらい舟の川下りは、ここから来ているとのことです。



たらいに乗って大垣城を脱出（おあむ物語絵巻より）
絵図は大垣市教育委員会提供